

視野を広げる

S J 大学：人文学部・観光文化学科・3年

期間：平成 29 年 8 月 28 日～30 日（3 日間）

今回のインターンシップに参加した目的として、高校の選択授業、そして3年前期の授業で国際ビジネス論を受講し、貿易について興味を抱きました。授業では主に文字や写真で説明していたため、あまりイメージが湧かず、実際に現場等で貿易がどのように成立しているかを知りたいと思いインターンシップに参加しました。

学科が観光文化学科であるため、物流について関わることはありませんでしたが、生活している身の回りの物は初めからその場にあったものではなく、様々な人が関わりその場所まで物が流れてきたと知ることができ、物流業界に面白さを感じました。また、物流が止まると日本や世界が回ることが不可能になり、生きることが非常に苦しい状況になります。それだけ“物流”の仕事が日本や世界にとって重要な仕事だということをこのインターンシップを通して強く感じました。

インターンシップの際に、現場に連れて行っていただき、外国船が日本に到着する瞬間や到着した外国船からコンテナを日本の陸地に降ろす瞬間、保税地域、税関など様々な場所を見ることができました。全ての現場が新鮮で下関という身近で貿易が成立していることが未だに実感できません。最終日に輸入の申告書作成を教えていただきながら作成しました。この1枚の申告書は1枚紙であるが、高額の取引に関わるので、間違えてしまうことはできない業務で、確実に気を抜くことはできない仕事であると感じました。しかし、自分が作成した申告書で貿易が成立すれば、達成感ややり切った感を感じることができ、業務に対して、自分に少しずつ自信も持てるようになる仕事だと感じました。そして、物流業界となると難しい用語も多々出てきて、話についていくことが大変であったことが印象強いです。授業で出てきた用語もありましたが、仕事の話になると業界用語で話すため、全ての用語の意味を理解しておかないと、スムーズに仕事を進めることができず、報・連・相も共有も確実にできないだろうと思いました。それだけ、業界用語の大切さを実感しました。

また、昔から海外と関わる仕事に興味がありました。今回業務体験をさせていただいた部署は輸入であったため、貿易に関わる書類は全て英語で書かれていて、海外と関わる仕事の難しさを実感しました。英語が好きで、外資系で働きたいと今までは簡単に思っていたのですが、外資系も含め全ての企業への考え方が変わりました。しかし、英語が好きならば、もっと英語の勉強をして力を伸ばすことも可能であることがわかりました。

今回参加したインターンシップで業界の視野が広がりました。ネットに書いていることだけでは知ることができない現場や業務について、文字だけでは伝わらないことも感じました。知らないことが知っているに変わること、自分の可能性を広げることにも繋がると思うので、今の知識だけではなく、就職活動を始める前までに今自分が知らないことも知って視野を広げたいと思います。

グランドスタッフへの憧れ

S J 大学：人文学部・観光文化学科・3年

期間：平成28年8月22日～26日（5日間）

私は空港でのインターンシップに参加して、空港に携わっている方のお仕事を見学、体験しました。インターンシップでは、グランドスタッフの業務だけでなく、搭載や貨物など空港での様々な仕事を見学することができ、空港での仕事は旅客業務以外にも、多くの部門があるのだと実感しました。飛行機を飛ばすために、自分自身が思っていたよりも多くの人に関わっていて、チームワークの必要な仕事だと感じました。また、皆様が丸一となって飛行機を安全に、定刻に出発させようとしている姿にとっても責任感を感じました。

インターンシップ期間中は、多くのグランドスタッフさんとお話する機会がありました。そこで就職活動のお話や、実際に働いてみての感想、プライベートのことなどたくさんのお話をいろんな方から聞いて、とても勉強になり就職活動への意識を高めることができました。誰に聞いても、入社してからの勉強が大変で、システムもどんどん変わるため、日々勉強だとおっしゃっていて、大変そうだと思いましたが、毎日お客様の笑顔を見ることができ、やりがいのあるお仕事だと感じました。

私が実習中に一番印象に残っていることはグランドスタッフさんの笑顔と気配りです。お客様一人一人の要望に笑顔で丁寧に答え、また子供が泣いていたらステッカーをプレゼントするなど、困っているお客様がいたらすぐに駆け寄り、手助けをしている姿を見て、お客様のことをよく見ていて、第一に考えているのだと感じました。グランドスタッフの方々は、私たちが困っていても、すぐに飛んできて教えてくださり、私たちにまで本当に親切にしてくださって感動しました。すれ違うたびに話しかけてくださり、気を配っていただき、毎日笑顔で実習をすることができました。また、多くのことを教えていただき、毎日新たな知識が増え、たくさんの貴重な経験をさせていただき、日々驚きと興奮の連続でした。

インターンシップ前はグランドスタッフの仕事は、いつも笑顔で華やかな仕事だと漠然と思っていたのですが、実際に業務を体験させていただき、いつも楽しくて華やかな仕事だけではないと身をもって実感しました。しかし、常にお客様の前で笑顔を絶やさず接客している姿を見て接客業のプロだと感じました。

インターンシップに参加することにより、以前に増して空港で働きたいと強く思うようになりました。また、いつも優しくしてくださり、笑顔で接客をし、てきぱきと仕事をこなすグランドスタッフという仕事への憧れも強くなりました。このインターンシップで様々な方とかわり、多くのことを学び、たくさんの貴重な体験をすることができました。また、働くことの厳しさや楽しさ、やりがいを感じる事ができ、とても成長できた5日間でした。今後は、グランドスタッフの方々から聞いたアドバイスや意見を参考にしながら、悔いの残らないように、自分の夢に向かって精一杯努力したいと思います。また、残りの学生生活で、社会人として当たり前の言葉遣いや気配りなど、身につけるべきことを確信することができ、これから何をすべきかを考えることもできたので、本当に今回のインターンシップに参加することができて良かったです。

グローバル世界と物流

S大学：法文学部・社会文化学科・3年

期間：平成27年8月17日～21日（5日間）

まず初めに今回の五日間の下関港を中心としたインターンシップの機会を通じ、自分自身を得ることの出来た成果は二つある。第一に、我が国の物流に関して現場を体感することでかなり明確に認識を深めることが出来た点が挙げられる。もう一点は今後の就職活動や学生生活への展望を社員の方々との交流から広げることが出来たことである。

第一の成果についてであるが物流業界、中でも海運業に関心と強い思いを持っている私にとってこの五日間の実習はかけがえのないものになった。私は海や船、港に対して人一倍思い入れが強い。これには故郷が内陸県であったことが少なからず影響している。また、島国日本にとって海上貿易はライフラインを縁の下から支える必要不可欠な産業であり、そのダイナミズムと暮らしとのかかわりの大きさにも魅力を感じている。インターンシップ期間中、実際に下関港などの物流拠点の最前線で働かれているN通運の社員の方々から、事業や近年の日本や世界の海上貿易の現状をうかがった。これまでに自主的に書籍やインターネットを通じて深めて来た物流業界への見解を社員の方々からの生の声を聞くことで具体的に膨らませることができたことは大きな収穫であったし、事前学習の段階では具体的なイメージをつかめなかった事項についても詳細に学ぶことができた。例えば、物流のグローバル化。

この数年の世界、特にアジア地域の発展と事業の拡大の変遷により従来とはモノが顧客に届くまでのネットワークが格段に成長していることが印象に残っている。日本企業の海外進出に伴い、物流も海外拠点を中心としてスムーズにモノを運ぶ役割が要求される。N通運でも中国や韓国に拠点を設け、迅速な輸送を行う体制が整えられ、「世界」を掲げて事業を拡大している。社員の方々のお話からもビジネス全体が急速な勢いでグローバル化しているということ学んだ。今後は世界に目を向けることの出来る力が重要になり、自分自身も専攻している学問や日常生活を通じてこういった見方を養っていかうと意識するようになった。

また、長州出島や国際物流センター、倉庫など下関港の物流拠点に足を運び見学させていただいたことも貴重な経験だった。これまでは船で物資を運ぶことにしか目を向けていなかった自分にとって、港に物資が到着した後のモノの流れは未知のものであった。しかし、倉庫での保管、鉄道輸送といった過程まで実際に把握することで物流への見方も広がったように感じる。そして、N通運のような総合物流企業の抱える、モノを安全に早く届ける使命の重さも考える機会になった面もある。朝礼での体操、安全スローガンの復唱を毎日各部署で必ず実施していることもそうした姿勢を普段から心掛けるためのものであると思うし、港湾での荷役作業においても安全へのこだわりを感じた。

海運業務、物流の役割と重要性、海上貿易など、今回のインターンシップで今まで情報でしか知らなかったことを現場で体感できたことには本当に満足している。社員の皆様の働く姿勢、業務や企業への考えからたくさんの刺激を受け、自らの海運や物流への思いを確認できたことも大きな収穫である。今回感じた思い、学んだ知識を決して無駄にしないように今後の就職活動の糧にかえていきたい。

新たな視点を得られた経験

K大学：法学部・法学科・2年

期間：平成26年9月1日～5日（5日間）

私は航空業界に興味を持っています。そこで今回、お客様に直にかつ最初に接するグランドスタッフの世界の一端に身を置き、そこから航空会社というものを垣間見たいと思い、空港でのインターンシップに参加させていただきました。それに加え、社会人の方々の仕事に対する姿勢や思いを学ぶ機会にもしようと思っていました。

5日間で、ロビーサービス、手荷物受託業務、到着・ゲート業務、インチャージ業務、運行支援業務、貨物業務と幅広く体験させていただきました。どの業務にも乗客の立場からは見ることができない達成感や苦労があるのだと感じましたが、最も印象的だったのは社員の皆さんが相互に連携し、補い合っている姿でした。それぞれが仲間の状況に絶えず気を配り、助け合いながら、全員が無事に飛行機を飛ばし、お客様をお送りするという一つのことに向かっておられる姿はかっこよく思いました。また、航空業界は接客等において求められるレベルが高かったり、頭に入れておかねばならない知識が多かったりということで、日々自主的に勉強なさっている社員の方が多いということを知り、向上心あふれる職場なのだと思うと同時に、社員の方々の専門性の高さを感じました。羽田空港と密に連絡を取り合っているだけではなく、他国の航空会社の情報をも収集されている姿を見て、航空業界のスケールの大きさを感じ、一層航空に関する仕事を魅力的に思いました。

社員の方々は、業務のことだけではなく、共に働く仲間を求めるものや、この仕事に必要な素質、社会人としての責任についてもたくさんお話をしてくださいました。業務を体験させていただいたおかげで、これらのお話もより説得力を持って私の中に入ってきました。職場体験でしか得られないものを得ることができたと思います。学生のうちにしておいたらよいことについてもアドバイスをいただき、本当に社員の皆さんがしてくださるお話は勉強になることばかりでした。私が発する疑問にもとても親切に答えてくださり、恐縮するばかりでした。

この度このように非常に貴重な機会を得ることができ、本当に私は幸運だと思います。この5日間がとても楽しく充実したものとなったことがこの上なく嬉しく、お世話になったすべての方に感謝しています。また、一緒にインターンシップに参加した方たちは、私よりはるかに就職についてしっかり考えていて、大いに刺激を受けました。同年代であり同郷であるがゆえに盛り上がる話もあり、彼女たちと出会えたことも、大きな収穫の一つであると感じています。

これから私が進路について考えていく上で、今回のインターンシップが有益であることは間違いありません。将来、向上心・自主性・チームワークを備えている職場で働きたいという思いが新たに生まれましたし、職場という空間に身を置く経験が私の仕事に対するビジョンをより明確にしました。出会った方々のように、責任を自覚して働き、社会に役立てる大人になるため、積極的に様々な経験を積んでいこうと思いました。私に多くの新しい感覚を与えてくれた今回の経験にとっても満足しています。

船舶管理会社でインターンシップ体験 船舶運輸の現場で実習、主機に感動!!

〇 高等専門学校：商船学科・4年

期間：平成22年8月23日～28日（5日間）

私は、自分が希望していた運輸業で受入れが決まってインターンシップに行きました。8月23日から28日までの5日間の研修でした。

初日はオリエンテーションで企業の概要について教えていただきました。いろいろな部署について、船舶管理についての説明がありました。会社組織には海務部、工務部、営業部、業務部、安全・品質管理室のようにいろいろな部署によってなっています。船員の健康管理や休暇などをちゃんと管理していることが良くわかった。船舶管理についても詳しく聞きました。船会社から船を借りその船を代わりに運航し管理するのが船舶管理です。この企業ではいろんな船会社から船を借り、借りた船に、船員を乗船させて運航しています。I社の魅力は一般貨物船、コンテナ専用船、油タンカー、ケミカルタンカー、LNG船といういろいろな船舶に乗船できることである。いろいろな船に乗ることが出来る船会社は少ないと思うのでとても良い経験が出来る会社だと思いました。I社では船内で事故があった時はその時の状況をレポートにまとめて「どうしたら防げていたか。」をしっかりと考えて事故の再発防止につとめていました。だからI社は安全に対してしっかりとした対策をしており、船員の安全がよく守られていることがよく分かった。

説明が終わりオフィスの中を見学しました。いろんな船の設計図などが保管されていたりI社で開発されたプログラムで仕事をされていました。

2日目からコンテナ専用船「まや」に宇部から乗船しました。入港してきた「まや」は休む暇もなくすぐにコンテナの積み上げが始まりました。常に忙しい船だと思いました。コンテナの積み上げが終わりすぐに神戸に出航しました。「まや」は乗組員6人で運航していました。少人数で船を動かしているのに大変驚きました。ブリッチでは電子チャートAISといったいろいろな機材の説明を受けました。私はS学科の機関コースで学んでいるので、ブリッチでの仕事はあまり知らなかったのですが、今回のこの乗船体験はとてもおもしろかったです。また、機関室では学校実習船の機関室とは全然違う主機をみてとても感動しました。主機の立ち上げ方やエアランニングの仕方や出航する時と運航する時に燃料を変えるといった私が知らないことがたくさんあって大変勉強になりました。このインターンシップでコンテナ専用船の仕事の大変さと楽しさが良くわかりました。

最後に、今回インターンシップで実習体験させていただいたI社さんに感謝とお礼をもうしあげます。

